

# まちの話題

このコーナーでは、イベントやまちの話題、団体の活動などを紹介しています。耳寄りな情報は秘書広報課まで（市役所内線207）。

紙面に載せきれないまちの話題がどんどん届きます。西脇市Facebookで情報発信中！

## 市内の高校生が東日本大震災の被災地を支援

〔7月14日、20日 宮城県南三陸町、宮城県石巻市〕

東日本大震災の被災地を支援しようと、西脇高校生と西脇北高校の生徒が宮城県内の被災地を訪問しました。両校の被災地支援は震災が発生した平成23年から毎年、行われています。

西脇高校の生徒たちは南三陸町で飲食や射的など、さまざまな舞台が並ぶ「夕涼み会」を開催。西脇北高生たちは被災した高校の生徒らと交流しました。両校が開いた出発式では、代表の生徒が「現地で臨機応変に対応し、私たちにできることを精一杯やりましょう」などと、仲間呼び掛けました。



西脇高校の出発式（7月14日／西脇高校）



西脇北高校の出発式（7月20日／西脇市役所）

## まちを花でいっぱい

〔6月22日 西脇市役所〕



片山市長に花植えしたプランターを贈った生徒たち

西脇北高校の生徒たちが丹精込めて種から育てたマリーゴールド400株を市内の公共施設に寄贈しました。同校では「西脇市を花と緑でいっぱいにしたい」との思いで、花植えしたプランターを公共施設などに贈る「花いっぱい運動」に昭和63年から取り組んでいます。今年は120個のプランターを市役所など約30カ所の施設に届けました。

## 西高生が播州織エプロンを寄贈

〔7月9日 茜が丘複合施設みらいえ〕



播州織エプロンを製作した西脇高校生と笹倉教育長（前列左から3人目）ら

西脇高校生活情報科の皆さんが、図書館に播州織エプロン15着を寄贈しました。同館では西脇らしさの演出と播州織のPRを目的に、職員が業務で着用するエプロンの製作を同校に依頼。11名の生徒が1週間かけて4着のエプロンを作り上げ、笹倉教育長に手渡しました。エプロンは職員が作業しやすいように、肩が凝りにくいデザインで、ポケットの位置が工夫されています。

## 姉妹都市・レントン市へ14名の生徒を派遣

〔6月20日 市民会館〕



中学生親善使節団としてレントン市を訪れる14名の生徒と使節団団長・随行者

本市の姉妹都市・アメリカのレントン市へ派遣される中学生親善使節団の結団式を行いました。両市は昭和44年に姉妹都市提携を結び、中学生や市民使節団を相互に派遣するなど、交流を続けています。使節団の生徒らは11日間の日程でレントン市を訪れ、ホームステイをしながら異文化を学びます。

## 市民が輝けるまちを目指して

〔7月10日 コミュニティセンター比延地区会館「こみせん比也野」ほか〕



「市民が輝けるまちづくり」がテーマのまちかどミーティングは市内8カ所で開催

片山市長が市内の各地区を回り、市民の皆さんと意見交換を行う懇談会「まちかどミーティング」を開催しています。懇談会では、市のまちづくりの指針となる第2次総合計画や、平成33年春に完成予定の市庁舎と市民交流施設の整備計画について説明し、参加者から意見を伺っています。

## 犯罪や非行のない社会に

〔6月29日 西脇市役所〕



「社会を明るくする運動強調月間」に合わせ、片山市長に総理大臣メッセージを伝達

7月の「社会を明るくする運動強調月間」に合わせ、北播保護区西多分区保護司会の岩本幸久副会長が、総理大臣メッセージを片山市長に伝達しました。片山市長は保護司会の活動に敬意を表し、「関係機関の皆さんと連携し、安全で安心して暮らせる社会づくりを進めていきたい」と述べました。

## Photo Gallery

まちの話題や風景を写真で紹介



「地域医療を支える市民の会」の皆さんが出前講座を開催。鹿野町長寿会の参加者約50名に地域医療を守る取り組みについて紹介しました。（6月19日、鹿野町ふれあい館）



西脇市手話言語条例の推進を目的に、全ての市職員を対象に手話の研修会を実施。職員は聴覚障害や手話について理解を深めました。（7月5日、10日、生涯学習まちづくりセンター）



市民企画委員会「0」が「きて★みて★きいて！第20回あなたが主役フェスティバル」を開催。ステージ発表や手作り品の販売、100金遊び市が行われました。（7月15日、市民会館）



市役所1階の市民ギャラリーで、播州織を使用した株式会社泰久商店の子ども向け製品を展示しています。（9月28日まで、西脇市役所）